

2014年5月13日 記者会見 質疑応答（埼玉）

発表内容：2014年3月期決算について

日 時：2014年5月13日（火） 15時30分～16時10分

場 所：埼玉県政記者クラブ

発 表 者：池田社長、宮崎取締役、芳賀室長

【質疑応答】

Q. 県内企業の設備投資ニーズに変化はあるのか。

A. 昨年10月に引き続き、本年2月にも2回目の設備投資等のアンケートを実施しましたが、多くのお客さまが設備投資を計画されているものの、その実施時期などまだ具体化されていないお客さまも多い、と認識しています。当社としては、お客さまが設備投資へ踏み出せるよう、さまざまなご提案を行えるかどうかのポイントだと思います。ただ、県内企業のキャッシュポジションは業績回復に伴い良化していますので、設備投資に手元資金を活用するお客さまもおり、法人向けの貸出が急速に伸びていく状況にはない、と考えています。

Q. 県内経済における消費増税の影響はどうか。

A. 足元では販売減少など消費増税の影響が出ているように見えますが、大方の予想の範囲内ではないかと考えています。今後は、6月頃には消費増税の反動は収まり、7月から9月からは、回復に向かうものと見えています。

Q. 貸出金について個人ローンが伸びているのは消費増税前の駆け込み需要の影響か。

A. 昨年9月までは、駆け込みと思われる需要もありましたが、それ以降3月にかけてはさほど影響はなかったのではないかと考えています。当社では、昨年10月より、16の特定状態を保障する「団信革命」や、一定の日照不足が生じた場合に補償金を支払う「晴れたらいいね」といった付加価値の高い新商品を投入し、好調に推移していることから、そういったお客さまのニーズにしっかりとお応えできたことが、ローン増加の要因ではないかと考えています。

Q. 中小企業貸出は厳しいようにみえるが、今後の資金需要はどうか。

A. 業績回復に伴う企業のキャッシュポジション良化もあり、運転資金の借り換えニーズなど、表面的には資金需要が少なくなっているように見えますが、事業承継や医療・介護分野、新規開拓による融資などは相応の実績が上がっており、新たな資金需要があるのではないかと考えています。少し時間はかかると思いますが、景気回復の効果が中小企業に波及してくれば、運転資金など経常的な資金ニーズについても反転してくるのではないのでしょうか。

Q. 業績予想は堅めに見ているようだが、預貸金利回りの低下傾向には歯止めがかからないという認識か。

A. 金融緩和による低金利の状況は続いており、過去の高い金利水準の貸出金が現在の低い金利水準の貸出に入れ替わっていくことで、全体の貸出金利回りはまだ低下するものを見えています。埼玉県は、全国的にみても競合の激しい地域となっており、金利環

境は引き続き厳しいと認識していますが、過度な金利競争に巻き込まれないよう、金利以外で当社の付加価値をお客さまに感じ取っていただくことで、競争を勝ち抜いていきたいと思っております。そのためにもお客さまとのリレーション、スピード、他社との差別化が重要と考えています。

Q. 新規開拓が好調ということだが、こういった業種が伸びているか。

A. 特に突出した業種はなく、幅広い業種で新規融資が伸びましたが、医療・介護分野で伸び幅が比較的大きかったと思っております。

Q. 今期の貸出金増加額の見込みは。

A. 企業向けの貸出については1400億円程度、個人向けの貸出も同程度の増加を見込んでいます。意欲的な目標ですが、こうした取り組みを通じて業務粗利益の反転を目指したいと考えています。

Q. 預金が伸びた要因は何か。

A. 当社には約450万の個人口座があり、これら個人預金の増加が主な要因です。相続財産の受け皿として、他県から預金が流入していることも、個人預金増加の一因と考えています。埼玉県は、高崎線や宇都宮線など、東北や関信越からのアクセスも良好であり、他県からの預金流入は、埼玉県の地の利の高さを表しているのではないのでしょうか。

Q. 当期純利益の減益は何期ぶりか、また実勢業務純益の減益は何期連続か。

A. 当期純利益は5期ぶりの減益、実勢業務純益の減益は3期連続となります。

Q. 株価が上昇しない状態が続いており、もう天井ではないかとの見方も出てきているが、どう見ているか。

A. 足元のマーケットは踊り場の状態にあると見ています。昨年、株価が急激に上昇したこともあり、現在はその調整局面にあると考えています。日本の株式相場は、外国人投資家の影響を強く受けていますが、国内投資家がもう少し日本株を買い始めれば、株価も上昇する可能性が高いのではないかと考えています。また、リーマンショック後に減少した日本株担当のアナリストも戻ってきていると聞いていますので、世界の日本株式に対する興味は高まっているのではないのでしょうか。総じて、株価についてはあまり悲観的な見方はしていません。

Q. 4月にセブンデイズおみやをオープンしたが、その後の状況はどうか。

A. 現状、休日にご相談で来店されるお客さまは1日平均12名程度ですが、住宅ローンの契約や金融商品販売などの実績につながっています。セブンデイズおみやは開設間もなく、しばらくの間、様子を見ていく必要がありますが、お客さまと当社を結ぶチャネルについては、こうした休日営業の拠点に限らず今後も試行錯誤を続け、変化するお客さまのニーズにお応えする仕掛けをつくっていきたくと考えています。

以上